

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立金立小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A, 理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B, 理科〕
<ul style="list-style-type: none">・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

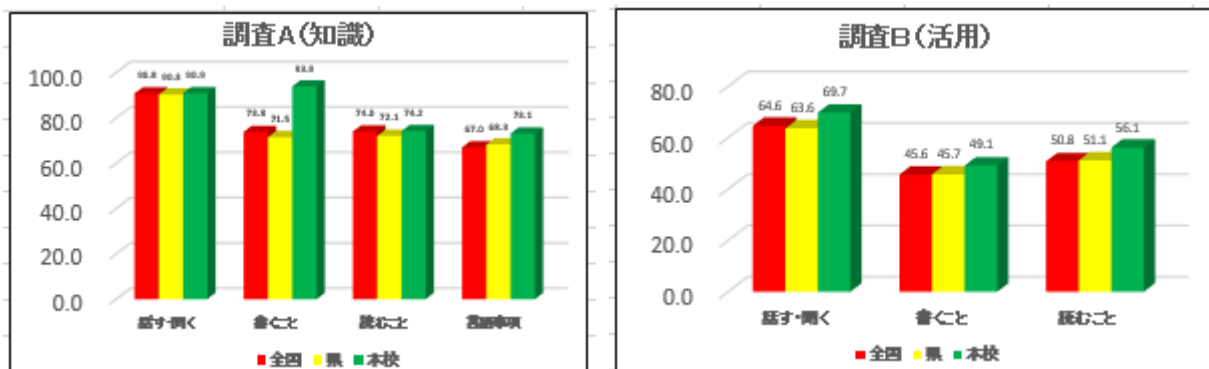
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語

(1) 結 果 全国・佐賀県正答率との比較 (※左から 全国・県・本校)



調査A(知識)及び調査B(活用)とも、全国・県の正答率を上回った。特に、領域別にみた場合、「書くこと」や「伝統的な言語文化と国語の特筆に関する事項」領域は全国・県の正答率を大きく上回っている。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・「計画的に話し合うための司会の役割」や「話し手の意図をくみ取りながら聞き、自分の意見と比較する」問題についてはよく理解できているが、「話し合いの参加者としての質問の意図を捉える」問題は正答率が落ちている。ことばの学習を今一度徹底し、質問の意図を問い返したりするなどの指導が必要である。

書 く

・「文章全体の構成の効果を考える」問題での正答率は、全国・県の正答率を大きく上回ったが、「目的や意図に応じて文章全体の効果を考える」問題は今一步であった。目的や意図に応じて主述をはっきりとさせて、作文に取り組ませるなどの学習訓練が必要である。また、「序論・本論・結論」等に基づいた構成をふまえた文章を書く機会を授業や特設タイム等でも取り組んでいくことも大切である。

読 む

・「情景描写を基に登場人物の心情を考える」問題や「目的に応じて文章の内容を的確におさえ、自分の考えを明確にしながらか読む」問題は全国・県の正答率を上回った。しかし、「目的に応じて必要な情報を捉える」問題は、全国・県の正答率と同じくらいであった。問いに対する必要な情報を下線を使ったり、書き出したりすることによって情報収集する力を培っていくことが必要である。

言語事項

・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題は概してよくできている。毎日、家庭学習にて漢字の書き取りを意欲的に励行してきた成果であると考えられる。しかし、「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」問題は、全国・県の正答率を下回った。尊敬語や丁寧語などの区別を再認識させると共に尊敬語を日常生活の中で正しく使わせていく必要がある。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

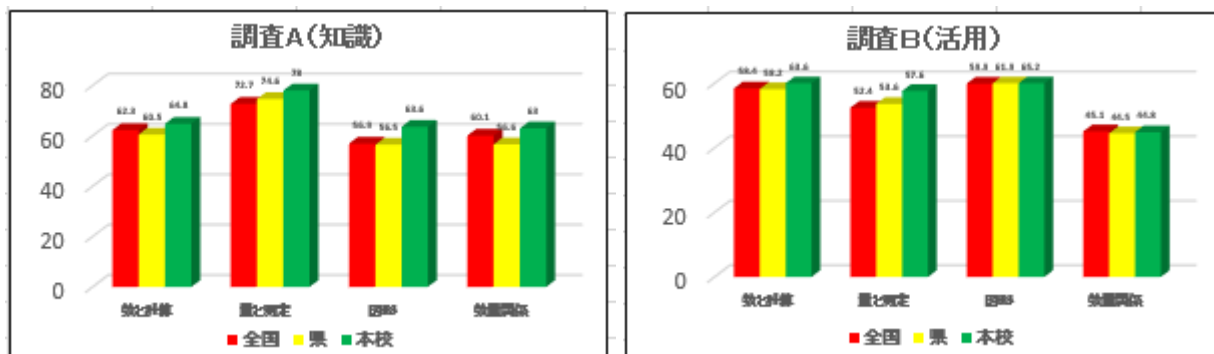
- 学校では、教師と児童の信頼関係を形成し、学習に臨む気構えをつくっています。また、「姿勢を正しくして話し手の話にしっかりと耳を傾ける」「板書された事項はしっかりとノートに書き写す」「分かったことや考えたことは積極的に発言する」などの基本的学習習慣の確立を目指しています。
- 授業では、自分の考えを相手に伝える機会を多くもたせ、はっきりと最後まで話すよう指導しています。また、より分かりやすくノートにまとめることも意識させています。
- 登校したら8時5分～15分に席について自主的に読書をする活動を続け、読書の習慣化と落ち着いて学習に臨む環境づくりに努めています。

【ご家庭では】

- 毎日音読を宿題に出しています。必ず聞いてあげて日々の上達ぶりを褒めてあげてください。
- テストやプリント、ノートの文字をご覧ください。「文字を丁寧に書く」「習った漢字は必ず使う」等、学校と家庭双方で声かけをすることで、子どもたちの意識もさらに高まります。
- 家庭での読書の習慣をつけてください。用語や語句を知らないために題意が理解できないことも多々あります。読書量が語彙力を高め知識の幅を広げ、生きる力を身につけることへとつながります。

2 算 数

(1) 結 果 全国・佐賀県正答率との比較 (※左から 全国・県・本校)



調査A(知識)では、全領域で全国を大きく上回っている。調査B(活用)も、全体では全国を上回っているが、「数量関係」領域は全国をやや下回った。基本的学習習慣が確立されたことも起因していることは言うまでもない。観点別比較で、数学的な考え方が全国・県正答率を上回っているのは、問題解決型の授業を全校をあげて取り組んできたことの成果であると受け止めることができる。ただ、全体的に不注意なミスも目立っているため、用語の意味を再確認したり、不注意ミスを紹介したりして意識づけを行っていく必要がある。

(2) 成果と課題

数と計算

・小数の除法の意味についての理解が今一步であった。また、十進法位取りについての数の大小を短絡的に捉えている児童も少なくない。特設タイムのスキルタイムなどで復習をしていく必要がある。

量と測定

・「面積」「単位あたり量の大きさのこみぐあい」等は全国・県正答率を大きく上回り、よく理解できている。しかし、「角の大きさ」についての理解がよくできていない。特に、鈍角を求める問題では、 180° や 360° を基にした考えを導き出せない児童が目立った。課外の時間等を利用した補習を励行したい。

図 形

・全ての問題で、全国・県正答率を大きく上回っている。唯一、県正答率並の「空間の中にあるものの位置」を表す問題でのミスも見受けられたので、今一度再確認する必要がある。今後も、具体物や半具体物などを用いた数学的活動を重視しながら指導していきたい。

数量関係

・棒グラフと折れ線グラフの複合グラフを関連づけた読み取りが不十分であった。また、「百分率を求める」問題の正答率が低かった。問題やグラフに数字や文字を書き込ませたりする習慣をつけさせる必要がある。さらに、割合を含めた百分率の復習を行っていく必要がある。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

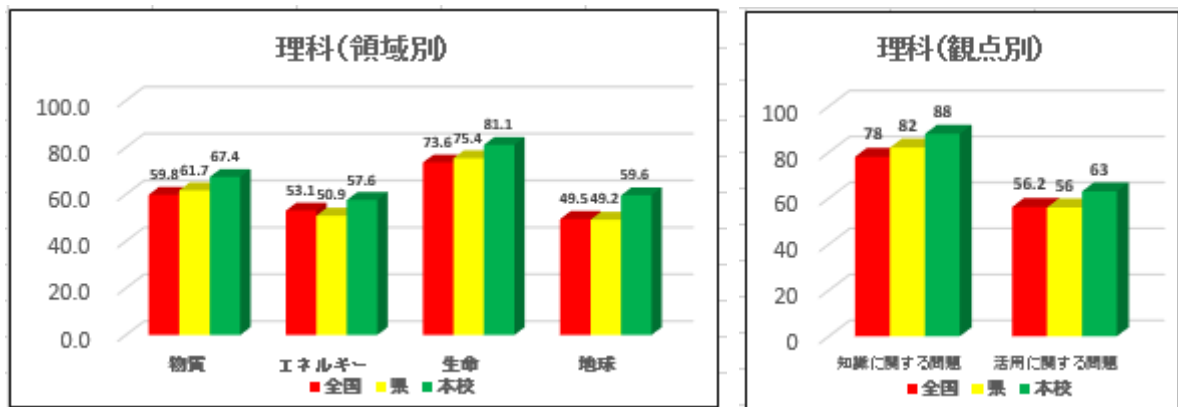
- 授業では、題意をしっかりとつかませ、見通しを基に自力解決し、交互に意見を発表し合い深めていく「問題解決型の学習」に力を入れて取り組んでいます。今後、練り合いの時間をさらに充実させ、基礎学力向上につなげていきたいと考えています。
- 指導形態として、中学年以上はT Tや少人数授業に取り組んでいます。特に、5学年においては、クラスを超えた集団を形成しての2 C 3 Tも導入しています。今後とも指導方法改善担当を中心に担任と連携しながら学力向上に努めていきたいと思ひます。
- 朝の特設タイムには、計算力を向上させる「計算タイム」、日々の学習の定着を図る「スキルタイム」を実施しています。級外の職員も入り、さらにしっかりと指導していきます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、学習していることがきちんと理解できているのかなど、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通し、関心をもっていただきたいと思ひます。
- ちょっと意識するだけで身の回りには算数に関係あることがたくさんあります。例えば、スーパーでの買い物の際、ペットボトルや牛乳パックなどに目をやると1 Lなどの量感が身につきますし、1 L = 1000 mLなどの単位換算も自然と理解できるようになります。また、実際に代金を考えていくときに、1000 円の品物に消費税8%が加算されると1080 円になるなど、算数を使う場面があふれています。算数科で学習したことを生活の場で生かす機会を増やしていただければ幸いです。

3 理 科

(1) 結 果 全国・佐賀県正答率との比較 (※左から 全国・県・本校)



「物質」「エネルギー」「生命」「地球」のどの領域も、全国・県の正答率を大きく上回っている。特に、食塩水の濃度に関する問題を取り上げている「物質」領域や、回路や電流に関する問題を取り上げている「エネルギー」領域の上回り方は顕著である。観点別に見ても、全国・県の正答率を大幅に上回っており、集中して学習できていることを裏付けている。また、実験や観察を主体とした授業展開も功を奏している。

(2) 成果と課題

知識に関する問題

- ・「骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を問う」問題や「堆積作用について科学的な言葉や概念を問う」問題、「ろ過の適切な操作方法を身につけているか」を問う問題では、いずれも全国・県の正答率を大きく上回っている。入念に観察を行ってきたことや種々の実験道具の操作方法を手順を追って丁寧に指導してきたことの成果であると受け止める。

活用に関する問題

- ・「野鳥のひなを観察できる方法」「土地の浸食についての考察」「乾電池のつなぎ方と電流の向き」「実験結果の分析」「実験結果から言えること等を問う」問題は、全国・県の正答率を大きく上回った。筋道立てた科学的思考力が大きく育っていることを物語っている。また、基本的学習過程が定着し、学習の仕方がしっかりと身につく、指導者が教えたいことを児童の口から言わせることを徹底してきたことにも起因している。
- ・反面、「実験結果から電流の流れ方についてより妥当な考えに改善する」問題や「食塩を水に溶かしたときの全体の重さを問う」問題の正答率は、全国・県の正答率を幾分下回った。実験結果からの考察をしっかりとさせる必要がある。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

- 児童が興味や関心をもてるような問題提示の工夫を行い、実験や観察の手順をしっかりとつかませて学習活動に臨ませていきます。
- 理科室を有効に使用して、実験器具や観察道具に親しめるようにします。
- 理科で学習したことを日常生活にあてはめて考えるような事例を挙げ、授業で学んだことと実生活との関連を図ることを目指します。
- 実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向をとらえて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。

【ご家庭では】

- 理科好きな子を育てるためには、子どもが理科学的なことに興味・関心をもったときに、周囲にいる大人や家族と一緒に考えたり、理解を示したりすることが大切です。お子さんが科学の偉大さや自然の素晴らしさに興味や疑問をもち、それについて深く知ろうとしたときに、ぜひ一緒に考えたり調べたりしてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1)結果

《生活習慣について》

調 査 項 目	本校 (%)	全国 (%)
毎日同じくらいの時刻に寝ている。(どちらかといえばしているも含む)	78.8	77.0
毎日同じくらいの時刻に起きている。(どちらかといえばしているも含む)	91.0	88.8
朝食を毎日食べていますか。(どちらかといえばしているも含む)	93.9	94.5
新聞を読んでいますか。(週半分以上)	19.5	19.9
テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見えていますか。	57.6	57.3

「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的生活習慣については概して定着していると思われるが、就寝時刻が不定期だったり、起床が遅れたりする児童がいることは否めない。また、朝食をとらない児童が6%ほどいるのは改善の余地がある。今後、機会あるごとに、保護者との連携を深めると共に生活の改善を図っていききたい。さらに、インターネットの普及も手伝い、新聞をとらない家庭も増えつつあるようだ。しかしながら、全国平均並とは言え、新聞に目を通さない児童が8割強いる。「テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見えていますか」の問いに対しても、半数近くの児童が「見ていない」と答えている。社会の動向や重大ニュースなどの情報を収集したり、語彙力を増やしたり文章表現を学んだりするためにも、新聞やテレビ、インターネットなどによって「ニュースを見る」習慣がつくように指導していくことも大切である。

《家庭学習の様子》

調 査 項 目	本校 (%)	全国 (%)
平日1時間以上勉強している。	78.8	66.2
平日1時間未満勉強している。(全くしていないは除く)	18.2	33.7
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	100.0	97.1
家で、授業の予習・復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	84.8	62.6
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	72.7	67.6
平日読書を30分以上している。	33.3	41.1

家庭学習については、全体的に意欲的に取り組んでいる様子がわかる。平日の勉強時間が3時間以上の児童が15%、2時間以上3時間未満の児童も12%と学習意欲が旺盛である。また、その日に学習した内容を復習したり、翌日学習することを予習したりする児童が85%近くにのぼっている。しかし、小中連携教育「雄飛学園」の学習の約束による1日1時間の勉強をクリアしていない児童が18%いるのも今後の課題である。

読書については全体的に少ない傾向にあり、全国平均を大きく下回っている。平日2時間以上読書をしている子は1人もおらず、30分以上するという児童もわずか33%にすぎない。毎日の宿題、予習・復習に時間を費やしていることは素晴らしいことではあるが、今後、読書週間への取り組み等、読書へのきっかけとなる機会を設けていきたい。

(2)改善に向けての取組

【学校では】

- 目標家庭学習時間である1時間を全児童が達成できるよう、学年に応じて自主学習(自学)を取り入れるなど、宿題の出し方を工夫していきます。
- 図書館祭りを設定し、「おすすめの本」を紹介したり、多読者を表彰したりすることで、児童が読書をしたくなるような環境作りをすすめていきます。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活は、子どもの健やかな成長に不可欠です。「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底と「決まった時刻に就寝」できるよう、ご家庭での声かけをお願いします。
- 「家庭学習のすすめ～てびき～」をご覧になり、毎日継続して家庭学習ができるように励ましてください。家庭学習時間の目安は低学年30分、中学年45分、高学年60分です。休日も学習するよう声をかけてください。今年度も取り組んでいる「まなざしカード」を活用した基本的な生活習慣と学習習慣の改善を図る取組にご協力をお願いします。また、筆箱を見るだけでも、子どもの学習や生活の様子をうかがい知ることができます。定期的な「学習用具の点検」をお願いします。